

ニュース & トピックス

滋賀大学のさまざまな取り組みや、キャンパスの様子など、注目のニュースをお届けします。



クリスマスツリーの贈呈式

クリスマスツリーでウクライナ支援 贈呈式と点灯式を実施

LED除菌脱臭灯などの販売を手掛けるI-Light株式会社より、除菌脱臭機能付きのクリスマスツリーを本学に寄贈いただきました。寄贈は「ウクライナからの避難学生の支援の一助に」というご意向によるもので、贈呈式にはウクライナから本学に避難している3人の学生が出席し、クリスマスツリー点灯式を実施。ツリーにはウクライナの国旗にあわせた青と黄色のイルミネーションライトがほのかに灯り、ウクライナをはじめ全世界の平和を願いました。式典には、本学公式キャラクター「カモンちゃん」もサンタクロース姿で駆けつけ、式典に華を添えたほか、彦根キャンパスのアカベラサークル「Decorate Box」による聖歌が披露され、聖夜のひとときをみんなで共有しました。除菌機能付きのクリスマスツリーのため、コロナ禍においてもウクライナの学生は安心して本学学生らと交流することができました。本学では引き続き、地域や企業の方々と協力・連携し、ウクライナからの避難学生に大学としてできる限りの支援を行ってまいります。

大塚製薬(株)と連携・協力に関する協定を締結明るく豊かな健康経営を目指す

2022年12月15日、大塚製薬株式会社京都支店(京都市下京区、支店長:塩田祐哉氏)と連携・協力に関する協定を締結し、彦根キャンパスで連携協定締結発表会を実施しました。これまでも、本学のスポーツ科学分野の専門科目「スポーツ身体論」に大塚製薬からの講師派遣や、経済学部社会システム学科の道上静香教授との共同研究・調査協力など、健康やスポーツの教育・研究において、互いに協力してきました。

今回の協定締結により、「ヘルシーキャンパス滋賀大学」の一環として健康経営に取り組み、学生・教職員の健康維持・増進に寄与することをめざします。具体的には同社の製品やアドバイスの提供、健康・スポーツ関連分野の教育・社会貢献活動事業の展開、健康増進啓発、スポーツ教育の普及、人材育成の活動などを行う予定です。

発表会では塩田支店長より「滋賀大学と一緒に健康のリテラシーを高める活動をしていきたい」、本学の須齋理事・副学長からは「教職員や学生、組織、そして地域の健康増進につながるよう、健康経営をキーワードとして地域貢献に広がる取り組みを進めていきたい」とあいさつがありました。



連携協定締結発表会の様子

経済学研究科ビジネス・データサイエンス専修プログラムで初めての修了生

令和4年度から大学院経済学研究科博士前期課程において募集を開始した「ビジネス・データサイエンス専修プログラム」(1年制社会人コース)において、令和5年3月、初めて修了生を輩出しました。本プログラムは、同じキャンパスにあるデータサイエンス研究科の協力によって、1年間で修士の学位を取得できる集中型社会人コースで、社会人の持つ豊富な業務経験の上に、経済、経営の専門的知見とデータサイエンスの手法を融合させ、業務革新コーディネーターの育成をめざしています。

修了した学生は兵庫県に住みながら彦根キャンパスに通学し、週に数回、勤務先で業務を行いながら、需要予測について研究。修了に必要な単位を修得のうえ学位論文を執筆し、最終試験に合格しました。修了後は勤務先において、未来の需要予測に基づいた企画案の策定や、市況に対する分析に基づいた軌道修正の方向性の検討などに本研究の成果が活かされることが期待されます。

プログラム受講で身につく力

- 1 ビジネス力** 課題背景を理解した上で、ビジネス課題を整理し、解決する力
- 2 データエンジニア力** データサイエンスを意味ある形に使えるようにし、実装や運用できるようにする力
- 3 データサイエンス力** 情報処理、人工知能、統計学などの情報科学系の知恵を理解し、使う力

【教育学部】

■おとさぼが「さわるオーケストラ」で盲学校に音楽をお届け

障がい児者の支援を目的とする教育学部附属音楽教育支援センター「おとさぼ」が、楽器を触って全身でオーケストラを感じる新しい音楽教育プログラム「さわるオーケストラ」を滋賀県立盲学校で実施。プロのオーケストラ「近江シンフォニエッタ」(代表:教育学部中根庸介准教授)の弦楽器奏者と打楽器奏者

が演奏を披露し、盲学校の生徒たちは楽しそうに身体を揺らしたり、リズムを取っていました。その後、実際に音を出す体験も行い、身体で音楽を感じ取りました。附属音楽教育支援センター長の林陸教授は、「触る」ことがとても有効に作用したと、プログラムの手ごたえを語りました。



■教育学部家庭科専攻4回生の濱中 綾さんが「日本家政学会関西支部 若手優秀発表賞」を受賞

「日本家政学会関西支部第44回研究発表会」で、教育学部家庭科専攻4回生の濱中 綾さんが、「日本家政学会関西支部 若手優秀発表賞」を受賞しました。濱中さんの口頭発表「小・中学校家庭科での『栄養を考えた食事』に関わる学習の理解と定着」は、本学の久保加織教授の指導のもと、滋賀大学教育学部附属小学校および附属中学校、上越教育大学 得丸定子名誉教授、神戸松蔭女子学院大学 奥井一幾准教授と実施した共同研究を発表したものです。

【経済学部】

■全国の経済系学部の学生が集う学術大会を企画・主催

2022年12月、彦根キャンパスで「第68回日本学生経済ゼミナール大会プレゼン部門決勝会」(通称インター大会)を開催しました。インター大会は全国の大学の経済学部、経営学部、商学部等に在籍する学生を対象とした学術大会で、プレゼン部門は全国から1,000人以上が参加する国内最大規模の発表会です。

今回は「不撓不屈」をテーマに、日頃の研究成果をパワーポイントにまとめ、発表技術や内容について競い合いました。今大会は、滋賀大学ゼミナール協議会が大会を企画、主催しました。



■経済学部 御崎加代子教授の論文が経営学のトップジャーナルに掲載

経済学部 御崎加代子教授の論文(ワルラスからシュンペーターへ —アントレプレナーシップの歴史的・思想的背景—)が、経営学のトップジャーナルである『組織科学』第56巻2号に掲載されました。本論文は、イノベーション論の元祖とされるシュンペーターの企業者概念の特徴と意義を、彼が影響を受けたフランスの企業者概念の歴史から考察し、現代のアントレプレナーシップ論の歴史的・思想的背景を明らかにすることを目的に執筆されました。

【データサイエンス学部】

■ジュニアデータサイエンティスト育成スクールで指導

今般、教育の現場ではGIGAスクール構想が進捗しています。この取り組みにあわせ、本学は彦根商工会議所、一般社団法人近江データサイエンスイニシアティブの三者で連携し、ジュニアデータサイエンティスト育成スクールを開講しました。データサイエンス学部生が講師を務め、参加した小・中学生は初めて

見るインターフェイスに戸惑いながらも、データサイエンティストの必須ツールであるプログラミング言語の基本操作の習得にチャレンジし、成し遂げました。昨年度より、遠方からの受講も可能となるようオンライン講座を設置し、拡充させたスクールを開講しています。



■米国・セントジュード子供研究病院と国際共同研究を開始

2023年1月、本学は米国・セントジュード子供研究病院からの依頼を受け、国際共同研究契約を締結。データサイエンス学部 和泉志津恵教授(専門:医療統計学)が、小児がん生存者研究(CCSS)に正式なメンバーとして参画します。CCSSは北米の31施設と協力し、小児がん診断から5年以降の生存者の健康状態の研究・改善を目的として、1994年から大規模な追跡調査を継続。多数の研究論文や付属研究を生み出しています。